

成年向け

肉
奴
隷
岩
瀬
愛
子











肉奴隸 岩瀬愛子

まえがき

こんばんは、はかばです。
この度は「肉奴隷 岩瀬愛子」を
お手にとって頂き、
ありがとうございます。

今回の本は、前回「肉欲蒼樹嬢」の
流れを汲む話となっております。
ですが、前回の本を読まなくても
楽しめるようになっております。

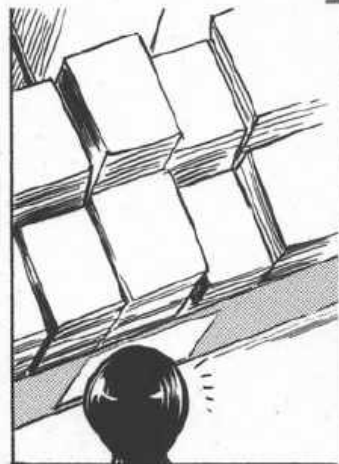
調教の果てに堕ちていく岩瀬さんを
自らに投影して、ひどとき現実を離れ
責められる快感に酔いしれて
いただければ幸いです。

前回のあらすじ

蒼樹嬢は石沢君に調教され、
肉の奴隷となりました。



それを知った岩瀬さん。
蒼樹嬢につめよる決意をする。

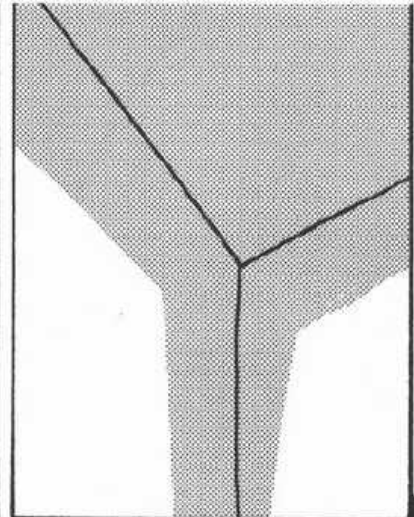


それでは、お楽しみ下さい。

蒼樹紅

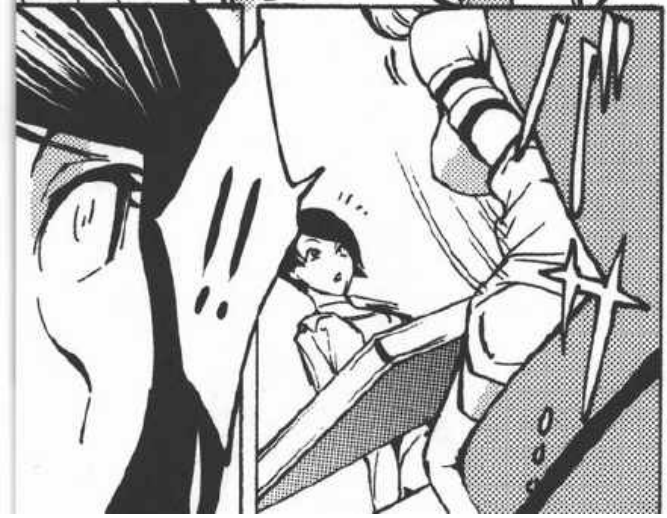


見下げ
果てたわ



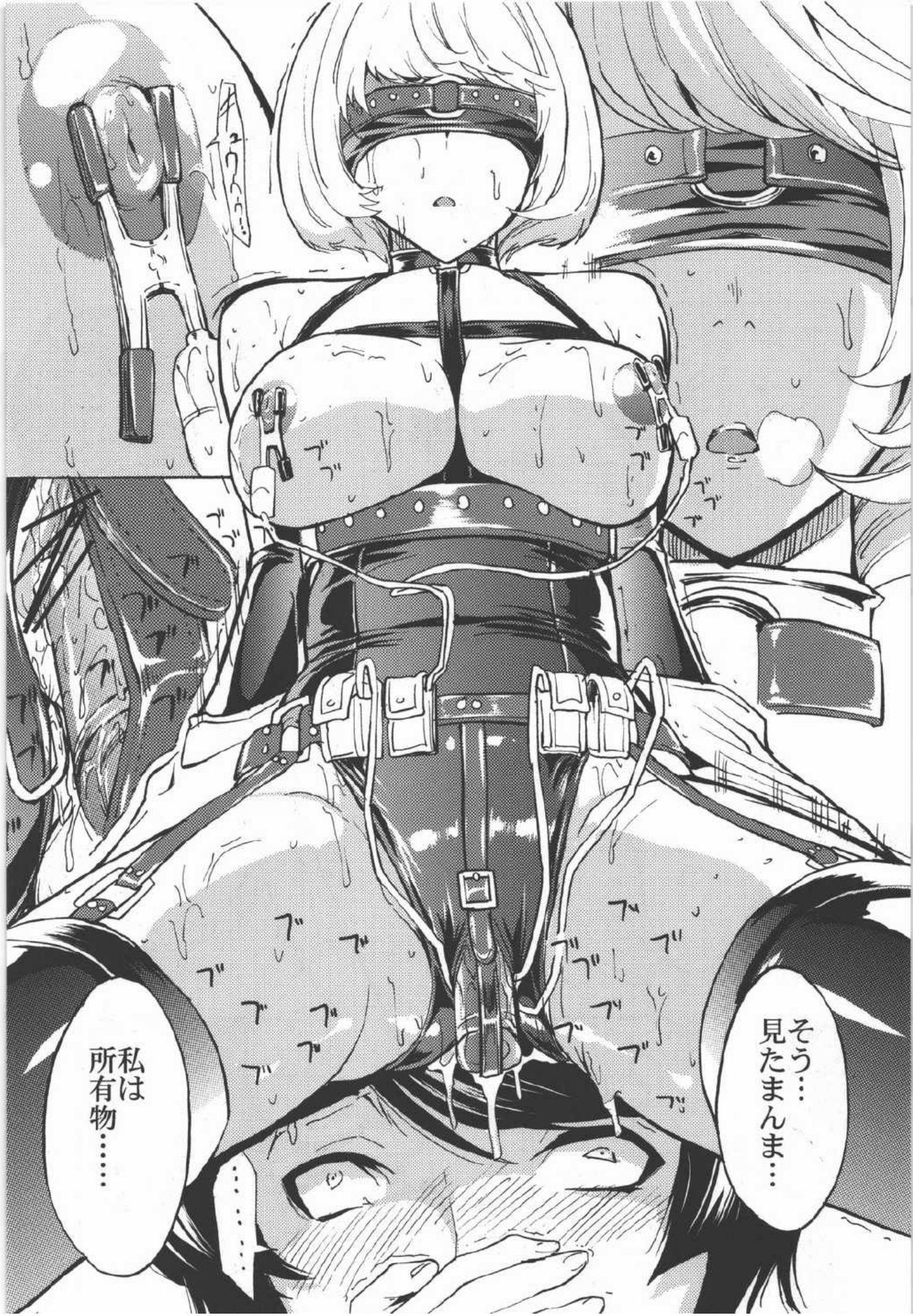
これ…

どう
どう
事?



見た
まんまよ

……



そう…
見たまんま…

私は
所有物…



すばらしい
肉奴隷だろ



岩瀬……

なあ……



何か言いた
そうだな

ア…ッ!



前にも増して
反吐の出るような
存在ね!

最低よっ!



うんうん

カホ

ウヴェツ



は…
離して!

ククク

離してッ!



顔つき

いいね

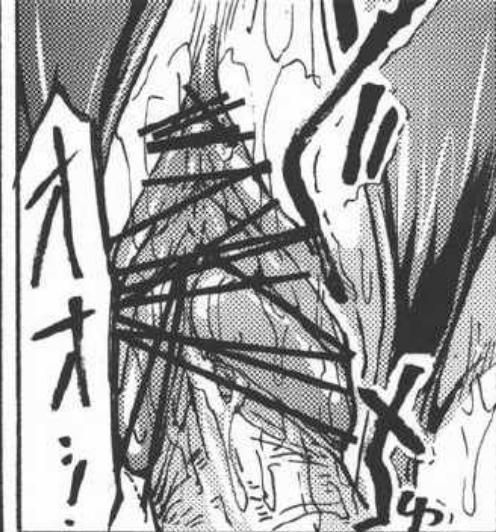
その
減らず口

嫌悪感



楽しみだよ…

それらが
快樂に歪み
崩れ落ちる…





気持ちいいよ
岩瀬え……



入った
……

奥まで
ズツポリ……



ヴヴ

ンウ!



ウ!

ウウツ



ウ

ウウウウ

ウツ!



もっと…
もっと下さい…

チ○ポ
気持ちいい

嬉しい
ねえい
こう敏感に
反応してくれると

誰があんたの
なんかっ!

違う…ツ!

ア…アツ!



ん?
何か言った?

ひ……つツイイイ
イイイイイイ
イイイイ
ツツ

ごめん
全然聞こえないや

あえぎ声で(笑)



あ
気持ちいい






アアツ!

あ

ああああア

アアツ





ここで完全に
壊されてしまう事を



美貌にも
自信があつたん
じゃない?

ああ
気にしてる奴は
多かつたぜ



どんな風
だったの?

ああ



優秀
だったさ

学年
トップクラス



大丈夫
だよ

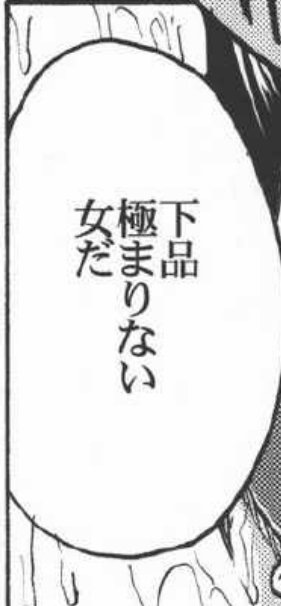
こんなブタでも
変わらず大好き
だよお 岩瀬



こんな顔
だけどな

ハハッ

あら
可愛らしい
ブタ鼻





ああ…

どんだん
声が大きく…

オオッ
オオッ
オオッ



オ…!

オオツ

オオッ
オオッ
オオッ

オオッ
オオッ
オオッ



イクのね…

ああ…

イク…

オオッ
オオッ
オオッ



大きな声…
嬉しい

岩瀬さんが
私のチ○ポで
悦んでる…

オ…!

オ…!



ああ!!
いったのね

ねえ
どうだった
私の子○ポ...



え？
もう一回して
欲しいですって？



きつと
快楽にまみれた
表情をしてる：



そうかそうか
ククク：



ホラ
体がこんなにも
悦んでる



何も言えないなら
手伝ってあげないと
なあ

もつと
して欲しいのに
悪いもんならあ

きつとそうに
決まっていますわ

こんな大声で
求めているもの

もはや
人権などない

まるで子供が
おもちゃを扱うが如く
体を弄ばれ続ける



似合っているぞ
メイド服…

クク…
憎悪の念は
相変わらずか…

来い
仕上げだ



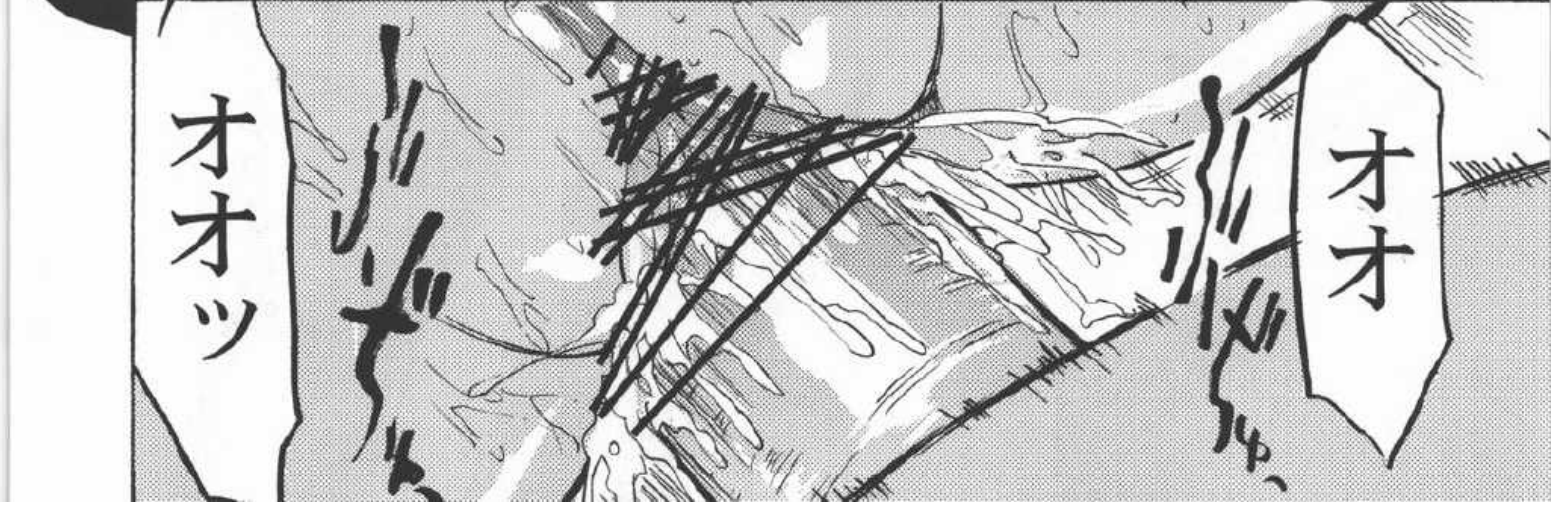
ウウ...ッ

ウオ...ッ

オオツ!



ウウ!



オオツ

オオ



ホ……オ

ホオツ

ホオ……ツ

遠慮なく
むさぼりしへす

どこまでも
いやらしい体よ

さあ
イキなさい



犯すほどに
いやらしくなる…



先が楽しみだよ
岩瀬

ご愛読ありがとうございました。
楽しんで頂けたら幸いです。

前回同様、石沢君はキャラクターが
いつもの僕のマンガのおじさんの
立ち位置でした。
僕のマンガのコンセプト、テーマとして
「調教→堕ちる→受け入れる(目覚める)」
という流れがあります。

女の子を話の中心に置き、堕ちゆくさまを
描くことになるので、石沢君など居て居ないような
キャラなのです。ゴメンよ石沢君。
当然このマンガにおける主要男性キャラは出てきません。
オナニー中に友達が顔覗かせたらなえますよね。
そういうことです。

岩瀬さんは今後どういう活躍の場をみせてくれるか。
今後はバクマンを一読者として楽しんでいきたいです。

使えなかったネタ。

●蒼樹嬢を買める。

岩瀬調教中に、石沢が趣向をかえて岩瀬にペニスバンドを
装着させる。
岩瀬の前で股を開いた蒼樹嬢は岩瀬に、自分を犯してくださいと
懇願する。
蒼樹嬢をペニスバンドで犯す岩瀬。
恥ずかしげもなく、その快楽に身をよじらせ、動物のように泣く蒼樹嬢を
みて、興奮してしまう岩瀬・・・。
したいに、岩瀬の脳裏は、「自分もこんな風に買められたい・・・」となっていく。

●開放、その後。

ラスト2ページにオチとして描いたシーンですが、調教のさなかに
開放、自由にする予定でした。
岩瀬の心境をメインに進むストーリー。

望んでいた状況だったのに、素直に喜べない、むしろ今の私の感情・・・

— 察てられた —

かつては学友、最近では担当編集者・・・ 今度は・・・
(これは高木、服部さんのことですね。)

岩瀬の寝室、息が荒い、というシーンにて

大体、今ここで自由になって・・・

いったい、どうしろと——
(このセリフ、ページをめくった次のページ。大きくコマづかって
全身くまなくおもちゃで自らを買めている岩瀬さんの図、そこに大きく
いったい、どうしろと——の文字。)

体が火照る。あの日の、あの最悪の日々が、いつまでも忘れられない。
私は、私は・・・

そして、再び石沢の元へと向かう岩瀬。

●土下座

戻ってきた岩瀬に対し土下座するよう命令した石沢。
性への快楽のみを求めるだけではダメ。命令に忠実に従えて、
立派な奴隷、という事なのでしょう。

土下座をした岩瀬に対し「よしとせうまで土下座をしなさい」と命令。
長い時間土下座をしていると、あえぎ声が、
岩瀬に聞こえるように目の前で石沢と蒼樹嬢が性行為を始める。
そんな中でもじっと土下座をする岩瀬。精神的には限界。

性行為を終えた二人、石沢は蒼樹嬢に岩瀬の状況をおしえる。
すると蒼樹嬢、岩瀬の前にちかづいてきて・・・
真上から小便をし、岩瀬にあびせる。

・・・それでも、やはり動かない岩瀬。じっと、土下座を続ける。

・・・石沢はなんと、自分の寝室にいってしまう。蒼樹嬢も、
一晩放置され、明かりも消えた暗闇の中、そこにはじっと土下座し続ける
岩瀬の姿があった。

数日間同じようなことが繰り返され、ようやく「よし」の声がかかる。
石沢は岩瀬の顔をのぞく。すると・・・

あくまで平静な、岩瀬の顔があった。
感情を押し殺し、冷徹に、忠実に命令に従う奴隷の姿がそこにあった。
石沢は岩瀬を抱きしめる。
「よくやった」

この瞬間、張り詰めていたものがとけていく。
押し殺していた感情があふれだす。
(絵的にはまだ顔は出さない。でも肩が震えてたりなど体で表現)

「お前はすばらしい奴隷だ。」

「・・・ありがとうございます・・・」
(まだ顔は見せない)

「一生、大切に使い続けてやるよ」

「・・・ありがとう、ございます・・・」
(口元で、ちょうどここで左ページを下になるように。
で、ページめくって。)

「ありがとう、ございます」
ここで大コマ。1ページまるごと、くしゃくしゃになつて泣き顔の、
しかしその奥に喜びを感じている、そんな岩瀬の顔。
今までの流れで、唯一感情を顔に出すシーン。

・・・そして、岩瀬は奴隷となっていった。というネタ。

・・・ここまで書くと、実は今回のマンガがいかに描かれていないか、
というのがバレルレである。ごめん。

これを描こうとしたら、50ページくらい必要でしょ？
ネタもつたいないと言ふな。ゆるせ。



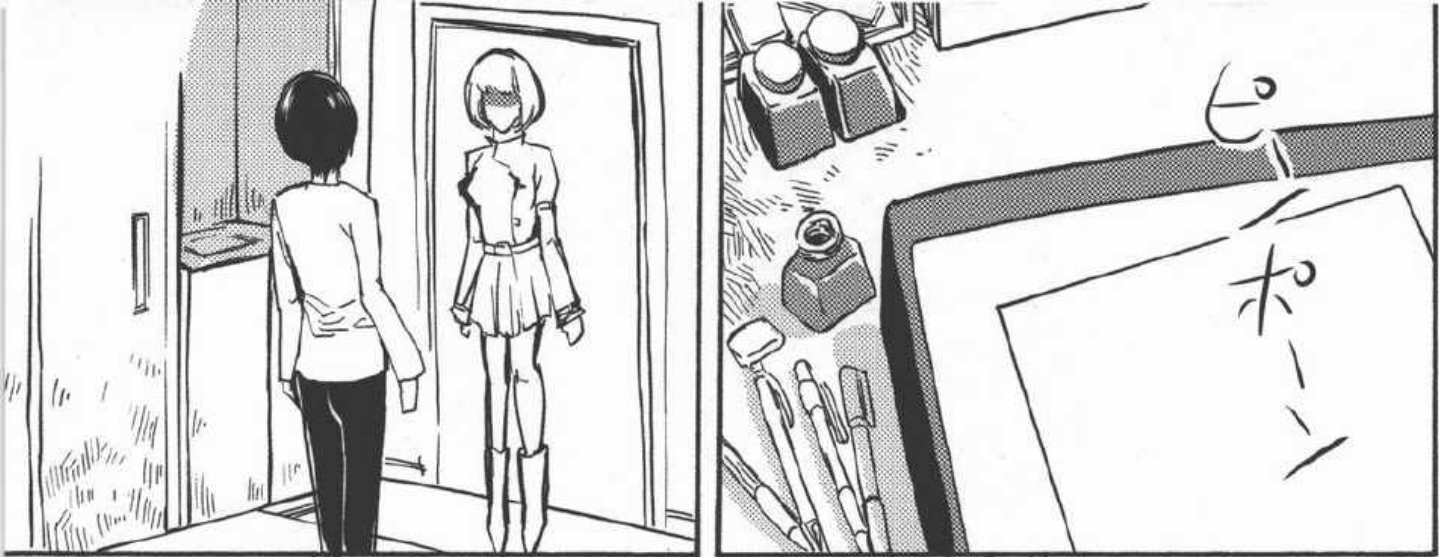
肉奴隷 岩瀬愛子

発行日: 大理石 (だいらせき) 発行者: 墓場 (はかば)
印刷所: 日光企画さま 発行日: 2010年12月31日

本書の無断転載、複製、模写、ネット上へのアップ
暴利でのオークションへの出品はご遠慮ください。

大理石ブログ <http://dairiseki.blog39.fc2.com/>
ツイッター <http://twitter.com/hakabadairiseki>

メールアドレス hakabadairiseki@yahoo.co.jp



さあ
行きましょう



それでは
始めようか…



クク…
きたか

石沢様…

はい…

肉奴隷 岩瀬愛子
2010 December

登場個人サークル「大理石」：はかば

For adult only

18才未満の方の
この本の購入及び
中身の閲覧を
固く禁じます。

